

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-262282

(43)Date of publication of application : 13.10.1995

(51)Int.Cl.

G06F 19/00

(21)Application number : 06-074159

(71)Applicant : PFU LTD

(22)Date of filing : 20.03.1994

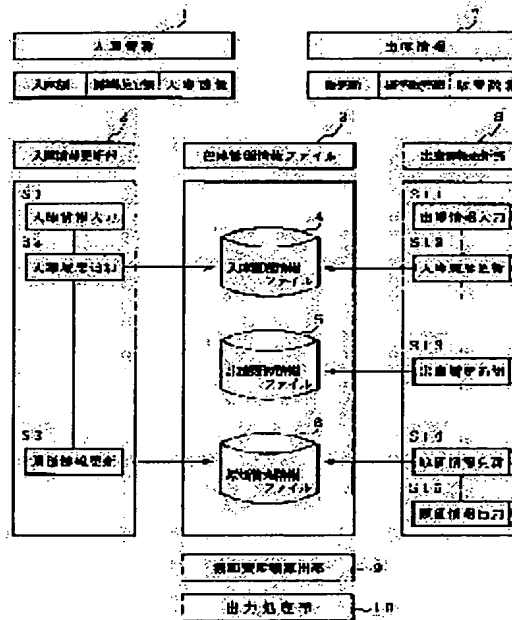
(72)Inventor : SHIOCHI YOSHIKI
TAKAHIRA YOSHITAMA
MOCHIZUKI MAKOTO
NUMATA TSUKASA
ENDO SACHIKO
MIYAMOTO JUNICHI

(54) INVENTORY CONTROLLER

(57)Abstract:

PURPOSE: To present a more profitable method for cost account and the evaluation of stock amount by calculating and storing a stock amount in accordance with plural evaluation methods based on cost information and displaying its list.

CONSTITUTION: A warehousing information update part 2 prepares the records of a stock quantity, a warehousing amount and the unit price of standard sales, so as to add it to a stock history information file 4 (S2) and updates a stock quantity, a stock sales price, an average unit price and a stock cost rate in a cost control information file 6 (S3). On the other hand, a delivery stock update part 8 subtracts from or adds an allowance to the warehousing history information file 4 by the portion of a delivery quantity based on delivery information (S12), adds the record of the delivery quantity and a delivery unit to a delivery history information file 5 based on delivery information (S13) and updates the stock quantity, the stock price, the average unit and the stock cost rate in the cost control information file 6 (S14). Then, the stock amount calculation part 9 respectively calculates the stock amount in accordance with the evaluation method.



* NOTICES *

JPO and INPIT are not responsible for any damages caused by the use of this translation.

1.This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.

2.*** shows the word which can not be translated.

3.In the drawings, any words are not translated.

(11)特許出願公開番号

特開平7-262282

(43)公開日 平成7年(1995)10月13日

技術表示箇所

G 0 6 F 15/ 24

審査請求 未請求 請求項の数3 FD (全 14 頁)

(22)出願日 平成6年(1994)3月20日

株式会社ピーエフユー

石川県河北郡宇ノ気町宇野気ヌ98番地の
2

石川県河北郡宇ノ気町宇野気ヌ98番地の
2 株式会社ビーエフユー内

石川県河北郡宇ノ気町宇野気ヌ98番地の
2 株式会社ビーエフユー内

(74) 代理人 弁理士 岡田 守弘

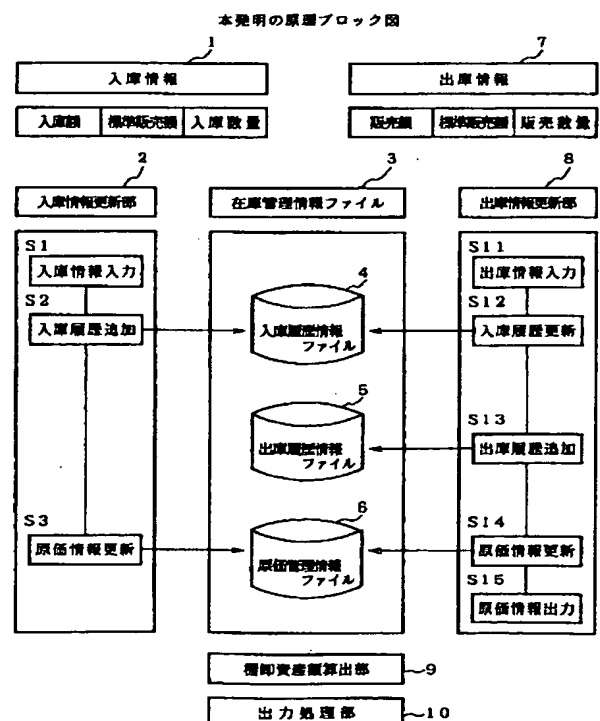
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 在庫管理装置

(57) 【要約】

【目的】 本発明は、在庫を管理する在庫管理装置に関し、入庫情報をもとに入庫履歴情報および原価管理情報を追加・更新し、出庫情報をもとに入庫履歴情報、出庫履歴情報および原価管理情報を追加・更新し、平均原価を算出および引き当てた入庫額から原価を算出し、更に棚卸資産額の複数の評価方法による棚卸資産額を算出してリスト表示し、より有利な原価算出および棚卸資産額の評価方法を提示することを目的とする。

【構成】 入庫数量、入庫額および標準販売単価を保存する入庫履歴情報ファイル4と、在庫数量、在庫売価額、平均単価および在庫原価率を保存する原価管理情報ファイル6と、入庫情報をもとに入庫履歴情報ファイル4に入庫数量、入庫額および標準販売単価のレコードを追加、および上記原価管理情報ファイル6の在庫数量、在庫売価額、平均単価および在庫原価率を更新する入庫情報更新部2を備えるように構成する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 入庫数量、入庫額および標準販売単価を保存する入庫履歴情報ファイル（４）と、
在庫数量、在庫売価額、平均単価および在庫原価率を保存する原価管理情報ファイル（６）と、
入庫情報をもとに上記入庫履歴情報ファイル（４）に入庫数量、入庫額および標準販売単価のレコードを追加、および上記原価管理情報ファイル（６）の在庫数量、在庫売価額、平均単価および在庫原価率を更新する入庫情報更新部（２）とを備えたことを特徴とする在庫管理装置。

【請求項 2】 入庫数量、入庫額および標準販売単価を保存する入庫履歴情報ファイル（４）と、
出庫数量および出庫単価を保存する出庫履歴情報ファイル（５）と、
在庫数量、在庫売価額、平均単価および在庫原価率を保存する原価管理情報ファイル（６）と、
出庫情報をもとに上記入庫履歴情報ファイル（４）から出庫数量分だけ減算あるいは引当数を加算、出庫情報をもとに上記出庫履歴情報ファイル（５）に出庫数量および出庫単価のレコードを追加、および上記原価管理情報ファイル（６）の在庫数量、在庫売価額、平均単価および在庫原価率を更新する出庫情報更新部（８）とを備えたことを特徴とする在庫管理装置。

【請求項 3】 上記原価管理情報ファイル（６）を参照して評価方法に従って棚卸資産額をそれぞれ算出する棚卸資産額算出部（９）と、
算出した棚卸資産額をソートして上記評価方法に対応づけて出力する出力処理部（１０）とを備えたことを特徴とする請求項 1 および請求項 2 に記載の在庫管理装置。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】 本発明は、在庫を管理する在庫管理装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の商品の在庫管理は、入庫した入庫数や入庫額を商品毎に管理すると共に、販売数量を入庫数の古いものから順に引き当てていた。このときの原価管理として、在庫となっている入庫数の平均の原価を算出してこれをもとに販売価格を決めるか、あるいは引き当てた商品の入庫額から原価を算出してこれをもとに販売価格を決めるかのいずれか一方を固定的に行うようにしていた。

【0003】 また、商品の棚卸資産の評価方法として 8 つの評価方法がある。在庫資産額は商品毎に適切な評価方法を選択して算定して申告することができるが、この棚卸資産の評価方法は事業年度の始まる前に申請しておく必要がある。現状では、経験的に自己の商品に有利となる棚卸資産額の小さくと思われる評価方法を 1 つ決め、その評価方法に従って棚卸資産額を算出してい

た。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 上述したように、従来の原価管理は、入庫額の平均から原価を算出あるいは引き当てた商品の入庫額から原価を算出するのいずれか一方で算出していたため、商品の特性（在庫回転数など）によっていずれが有利なのか判断が難しく、専門家が経験的にいずれか一方を選択して算出するようにせざるを得ないという問題があった。

【0005】 また、商品の棚卸資産の評価方法も専門家がいずれ 1 つを経験的に決めて算出しており、いずれの評価方法が有利であるかを知ることができないという問題があった。

【0006】 本発明は、これらの問題を解決するため、入庫情報をもとに入庫履歴情報に追加および原価管理情報を更新し、出庫情報をもとに入庫履歴情報を更新、出庫履歴情報に追加および原価管理情報を更新し、平均原価を算出および引き当てた入庫額から原価を算出し、更にこれらの情報をもとに棚卸資産額の複数の評価方法による棚卸資産額を算出してソートしてそのリストを表示し、より有利な原価算出および棚卸資産額の評価方法を提示することを目的としている。

【0007】

【課題を解決するための手段】 図 1 は、本発明の原理ブロック図を示す。図 1 において、入庫情報 1 は、商品の入庫情報であって、下段に記載するように、入庫額、標準販売額、入庫数量である。

【0008】 入庫情報更新部 2 は、入庫情報 1 をもとに入庫履歴情報ファイル 4 に追加、および原価管理情報ファイル 6 を更新するものである。在庫管理情報ファイル 3 は、在庫を管理するファイルであって、入庫履歴情報ファイル 4、出庫履歴情報ファイル 5、および原価管理情報ファイル 6 から構成されるものである。

【0009】 入庫履歴情報ファイル 4 は、入庫情報を保存するものであって、入庫数量、入庫額および標準販売単価を保存するものである。出庫履歴情報ファイル 5 は、出庫情報を保存するものであって、出庫数量および出庫単価を保存するものである。

【0010】 原価管理情報ファイル 6 は、在庫数量、在庫売価額、平均単価および在庫原価率を保存するものである。出庫情報更新部 8 は、入庫履歴情報ファイル 4 から出庫数量分だけ減算あるいは引当数を加算、出庫情報をもとに出庫履歴情報ファイル 5 に出庫数量および出庫単価のレコードを追加、および原価管理情報ファイル 6 の在庫数量、在庫売価額、平均単価および在庫原価率を更新するものである。

【0011】 棚卸資産額算出部 9 は、原価管理情報ファイル 6 を参照して評価方法に従って棚卸資産額をそれぞれ算出するものである。出力処理部 10 は、算出した棚卸資産額をソートして評価方法に対応づけて出力するも

10

20

30

40

50

のである。

【0012】

【作用】本発明は、図1に示すように、入庫情報更新部2が入庫数量、入庫額および標準販売単価のレコードを作成して入庫履歴情報ファイル4に追加（S2）、および原価管理情報ファイル6の在庫数量、在庫売価額、平均単価および在庫原価率を更新する（S3）ようにしている。

【0013】また、出庫情報更新部8が出庫情報をもとに入庫履歴情報ファイル4から出庫数量分だけ減算あるいは引当数を加算（S12）、出庫情報をもとに出庫履歴情報ファイル5に出庫数量および出庫単価のレコードを追加（S13）、および原価管理情報ファイル6の在庫数量、在庫売価額、平均単価および在庫原価率を更新する（S14）ようにしている。

【0014】また、棚卸資産額算出部9が原価管理情報ファイル6を参照して評価方法に従って棚卸資産額をそれぞれ算出し、出力処理部10が算出した棚卸資産額をソートして評価方法に対応づけて出力するようにしている。

【0015】従って、入庫情報1をもとに入庫履歴情報ファイル4に追加および原価管理情報ファイル6を更新し、出庫情報7をもとに入庫履歴情報ファイル4を更新、出庫履歴情報ファイル5に追加および原価管理情報ファイル6を更新し、これらの原価情報をもとに複数の評価方法に従って棚卸資産額を算出してソートし、そのリストを表示し、より有利な原価算出および棚卸資産額の評価方法を提示することが可能となる。

【0016】

【実施例】次に、図2から図12を用いて本発明の実施例の構成および動作を順次詳細に説明する。

【0017】図2は、本発明の入庫フローチャートを示す。図2において、S21は、入庫情報を入力する。例えば右側に記載したように、

- ・商品名：鉛筆
- ・標準販売単価：100円
- ・入庫額：500円
- ・入庫数量：10本と入力する。

【0018】S22は、入庫履歴情報ファイル4に入庫日時に対応づけてレコードを追加する。これにより、上記記入庫情報1が図3に示すように履歴として保存される。S23は、原価管理情報ファイル6より該当する商品の原価管理情報を読み込む。

【0019】S24は、在庫品の再評価を行い原価管理情報ファイル6を更新する。例えば右側に記載したように、原価管理情報の入庫前の在庫状態が

- ・在庫数量：10本
- ・在庫売価額：1000円
- ・平均売価：60円
- ・在庫原価率：0.60

であったものを、S21の入庫情報をもとに、

- ・在庫数量：20本
- ・在庫売価額：2000円
- ・平均売価：55円
- ・在庫原価率：0.55

に更新する。ここで、在庫売価額に（標準販売単価×入庫数量）を加算する。

【0020】以上によって、入庫情報の入力時に、入庫情報（標準販売単価、入庫数、入庫数量）を入庫履歴情報ファイル4に保存すると共に、原価管理情報ファイル6の内容を更新する。これらにより、入庫時に自動的に入庫情報が入庫履歴情報ファイル4に保存されると共に原価管理情報ファイル6の内容を更新する。

【0021】図3は、本発明の入庫履歴情報ファイル例を示す。この入庫履歴情報ファイル4は、図示の下記の項目を持つレコードを作成して追加する。

- ・商品名：図示しない
- ・入庫日時：
- ・入庫数量：
- ・入庫単価：
- ・引当数量：

この入庫履歴情報ファイル4に、入庫情報を保存するので、過去の入庫情報を必要に応じて参照することができる。

【0022】図4は、本発明の出庫履歴情報ファイル例を示す。この出庫履歴情報ファイル5は出庫数量および出庫単価を保存するものである。図5は、本発明の原価管理情報ファイル例を示す。この原価管理情報ファイル6は、原価管理情報例えば

- ・在庫数量：20本
- ・在庫売価額：2000円
- ・平均売価：55円
- ・在庫原価率：0.55

を管理するものである。次に、動作を説明する。

【0023】（1）入庫情報更新部2による更新説明：S31は、原価管理情報の更新を開始する。S32は、入庫情報作成時の事業年度から原価管理情報の更新対象レコードを選択する。

【0024】S33は、原価管理情報を更新する。S34は、原価管理情報の更新を終了する。以上によって、入庫情報をもとに原価管理情報ファイル6の内容が更新されたこととなる。

【0025】（2）出庫情報更新部8による更新説明：S41は、原価管理情報の更新を開始する。S42は、出庫情報作成時の事業年度から原価管理情報の更新対象レコードを選択する。

【0026】S43は、原価管理情報を更新する。S44は、原価管理情報の更新を終了する。以上によって、出庫情報をもとに原価管理情報ファイル6を更新する。

【0027】次に、図6のフローチャート（その1）に

示す順序に従い、出庫時の手順を詳細に説明する。S51は、出庫情報の入力を行う。例えば右側に記載したように、

- ・商品名：鉛筆
- ・標準販売単価：100円
- ・販売額：1000円
- ・販売数量：10本

とする。

【0028】S52は、旧い入庫数量から販売数量を引き当て、入庫履歴情報ファイル4を更新する。例えば右側に記載した入庫履歴情報ファイル4に示すように、

- ・入庫数量：10本→10本
- ・入庫単価：50円→50円
- ・引当数量：0円→10本（引当数量を10本にして出庫した旨を表す）

とする。

【0029】S53は、出庫履歴を作成して出庫履歴情報ファイル5に追加する。例えば右側に記載した出庫履歴情報ファイル5に示すように、

- ・出庫単価：50円
- ・出庫数量：10本

と追加する。

【0030】S54は、原価管理情報を作成して原価管理情報ファイル6を更新する。例えば右側に記載した原価管理情報ファイル6に示すように、

- ・在庫数量：20本→10本
- ・在庫売価額：2000円→1000円
- ・在庫原価率：0.55→0.55

とする。

【0031】S55は、原価情報を出力する。例えば右側に記載した原価情報に示すように、

- ・平均単価：55円
- ・在庫原価率：0.55

とする。

【0032】以上によって、出庫情報の入力時に、出庫情報（標準販売単価、販売額、販売数量）を入庫履歴情報ファイル4から引き当てると共に、出庫履歴情報ファイル5に追加し、更に原価管理情報ファイル6を更新する。これらにより、出庫時に自動的に出庫情報が入庫履歴情報ファイル4から引き当てられると共に、出庫履歴情報ファイル5に追加および原価管理情報ファイル6を更新する。

【0033】図7は、本発明の出庫フローチャート（その2）を示す。図7において、S61は、入庫数量>引当数量か判別する。これは、図3の入庫履歴情報ファイル4中の

入庫数量>引当数量

か判別、即ち入庫数量に設定されている数量が、過去に既に引き当てた引当数量の欄に設定されている数（引当数量）よりも大きくて引き当てる余裕があるか判別す

る。YESの場合には、S62に進む。NOの場合には、引き当てるものがないので、S66で次のレコードについてS61を繰り返し行い、割り当てる入庫数量があるまで繰り返す。

【0034】S62は、入庫数量-引当数量=出庫残数量とする。S63は、出庫残数量≥出庫数量か判別する。YESの場合には、引き当てができたので、S64で

・引当数量=引当数量+出庫数量

・出庫単価=入庫単価

とし、S65で入庫履歴更新および出庫履歴作成して追加する。一方、NOの場合には、引き当てができないので、S68で、

・出庫数量=出庫数量-出庫残数量

・引当数量=入庫数量

・出庫単価=入庫単価

とし、S67で出庫履歴追加および入庫履歴更新し、S66で次のレコードへ進み、S61以降を繰り返す。

【0035】以上によって、図3の入庫履歴情報4の旧い上から下に向け順次引き当て、入庫履歴情報ファイル4を更新および出庫履歴情報ファイル5に追加する。図8は、本発明の原価管理情報の更新説明図を示す。左側は入庫時の入庫情報による更新などを表し、右側は出庫時の出庫情報による更新などを表す。

【0036】まず、入庫時の原価管理情報ファイル6の更新について説明する。

（1）入庫額が500円の場合、原価管理情報ファイル6中の

・入庫額累計：0→500円

・入庫回数：0→1

とする。

【0037】（2）標準販売額が1000円の場合、原価管理情報ファイル6中の

・在庫売価額：1000円→2000円

とする。

【0038】（3）入庫数量が10の場合、原価管理情報ファイル6中の

・入庫数量累計：0→20

・在庫数量：10→20

・在庫原価率

とする。

【0039】（4）入庫単価が50円の場合、原価管理情報ファイル6中の

・仕入単価0が60→50円

とする。

【0040】以上の（1）から（4）によって、入庫時の原価管理情報ファイル6の更新が行われたこととなる。次に、出庫時の原価管理情報ファイル6の更新について説明する。

【0041】（1）販売額が1000円の場合、原価

管理情報ファイル6中の

・販売額累計：0→1000円

とする。

【0042】(2) 標準販売額が1000円の場合、
原価管理情報ファイル6中の

・在庫売価額累計：0→1000円

・在庫売価額：2000円→1000円

とする。

【0043】(3) 販売数量が10の場合、原価管理
情報ファイル6中の

・在庫数量：20→10

・在庫原価率

とする。

【0044】(4) 出力情報：

・仕入単価などを出力する。

以上の(1)から(4)によって、在庫時の原価管理情
報ファイル6の更新が行われたこととなる。

【0045】次に、図9から図12を用いて棚卸資産額
の算出について詳細に説明する。図9において、S71
は、原価管理情報ファイル6より

- ・平均単価
- ・在庫数量
- ・在庫売価額
- ・原価率

を取り込む。

【0046】S72は、棚卸資産額を算定する。ここ
で、右側に記載した下記の評価方法(図10、図11参
照)によりそれぞれ棚卸資産額を算出する。

- ・棚卸資産額1=平均単価0×在庫数量
- ・棚卸資産額2=平均単価1×在庫数量
- ・棚卸資産額3=平均単価2×在庫数量
- ・棚卸資産額4=平均単価3×在庫数量
- ・棚卸資産額5=在庫売価額×在庫原価率

S73は、棚卸資産額を小さい順にソートする。

【0047】S74は、評価方法を棚卸資産額をリスト
表示する。例えば後述する図12に示すように、棚卸資*

商品名	評価方法	棚卸資産額	説明
鉛筆	最終仕入原価法	棚卸資産額1	1番安い
	単純平均法	棚卸資産額2	2番目に安い
	総平均法	棚卸資産額3	3番目に安い
	移動平均法	棚卸資産額4	4番目に安い
	売価還元法	棚卸資産額5	5番目に安い

この棚卸資産額の小さい順のリストを見て、最も小さい
評価方法をもとに次年度から棚卸資産額を算定すれば、
棚卸資産額が最も小さくなる可能性が高いと言える。

【0054】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、
入庫情報1をもとに入庫履歴情報ファイル4を追加およ
び原価管理情報ファイル6を更新し、在庫情報7をもと
に入庫履歴情報ファイル4を更新、在庫履歴情報ファイ

* 産額が小さい順に評価方法と棚卸資産額とを対応づけて
リスト表示する。このリストを見て、棚卸資産額が小さ
い方が税務上有利であるので、次年度の棚卸資産額の評
価方法の仕方を届け出するための参考にすればよい。ま
た、今年度については、既に届け出たある棚卸資産額の
評価方法で並行して評価すればよい(評価されている)
ので、切り替えは容易にできる。

【0048】次に、図10を用いて平均単価1から3、
在庫売価額の算出について説明する。図10は、本発明
10 の平均単価/在庫原価率の算出例を示す。

【0049】図10の(a)は、在庫原価率の算出例を
示す。図10の(b)は、平均単価1の算出例を示す。
図10の(c)は、平均単価2の算出例を示す。

【0050】図10の(d)は、平均単価3の算出例を
示す。以上に式および具体例で示したようにして、図9
の棚卸資産額1から5を算出するときに使用する、在庫
原価率、平均単価1から3が得られたこととなる。

【0051】図11は、本発明の原価情報の出力例を示
す。これは、(a)の在庫原価率、(b)の平均単価
20、(c)の平均単価1、(d)の平均単価2、(e)
20 の平均単価3について、それぞれ記述した内容の原価情
報を出力する。例えば(a)は、

・販売原価の算定：販売額に対する原価率として原価算
定

・販売原価=標準販売額×原価率

・売価還元法による棚卸資産額

・棚卸資産額=在庫売価額×在庫原価率

として算出し、出力する。同様に図示のように原価情報
をそれぞれ出力する。

【0052】図12は、本発明の棚卸資産額の比較リス
ト例を示す。これは、既述した図9のS74で画面上に
棚卸資産額の小さい順に、評価方法に対応づけた棚卸資
産額を並べて表示したものである。ここでは、図示の下
記のようにリスト表示する。

【0053】

ル5に追加および原価管理情報ファイル6を更新し、こ
れらの原価管理情報をもとに複数の評価方法に従って棚
卸資産額を算出してソートしてそのリストを表示する構
成を採用しているため、より有利な原価算出および棚卸
資産額の評価方法を提示することができる。これらによ
り、商品種別毎の複数の評価方法に従って在庫原価を並
列に算定でき、これらのリストを表示して精度の高い棚
卸資産額の算定および販売原価の算定を行うことが可能

となる。次年度からの評価方法の決定と今年度分については（旧）評価方法で並行して評価できる。これにより、新しい評価方法への移行がスムーズにできる。つまり、並行して評価できるので、評価方法の切り替えを容易にできる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の原理ブロック図である。

【図 2】本発明の入庫フローチャートである。

【図 3】本発明の入庫履歴情報ファイル例である。

【図 4】本発明の出庫履歴情報ファイル例である。

【図 5】本発明の原価管理情報ファイル例である。

【図 6】本発明の出庫フローチャート（その 1）である。

【図 7】本発明の出庫フローチャート（その 2）である。

【図 8】本発明の原価管理情報の更新説明図である。

【図 9】本発明の棚卸資産額算出フローチャートである。

＊る。

【図 10】本発明の平均単価／在庫原価率の算出例である。

【図 11】本発明の原価情報の出力例である。

【図 12】本発明の棚卸資産額の比較リスト例である。

【符号の説明】

1：入庫情報

2：入庫情報更新部

3：在庫管理情報ファイル

10 4：入庫履歴情報ファイル

5：出庫履歴情報ファイル

6：原価管理情報ファイル

7：出庫情報

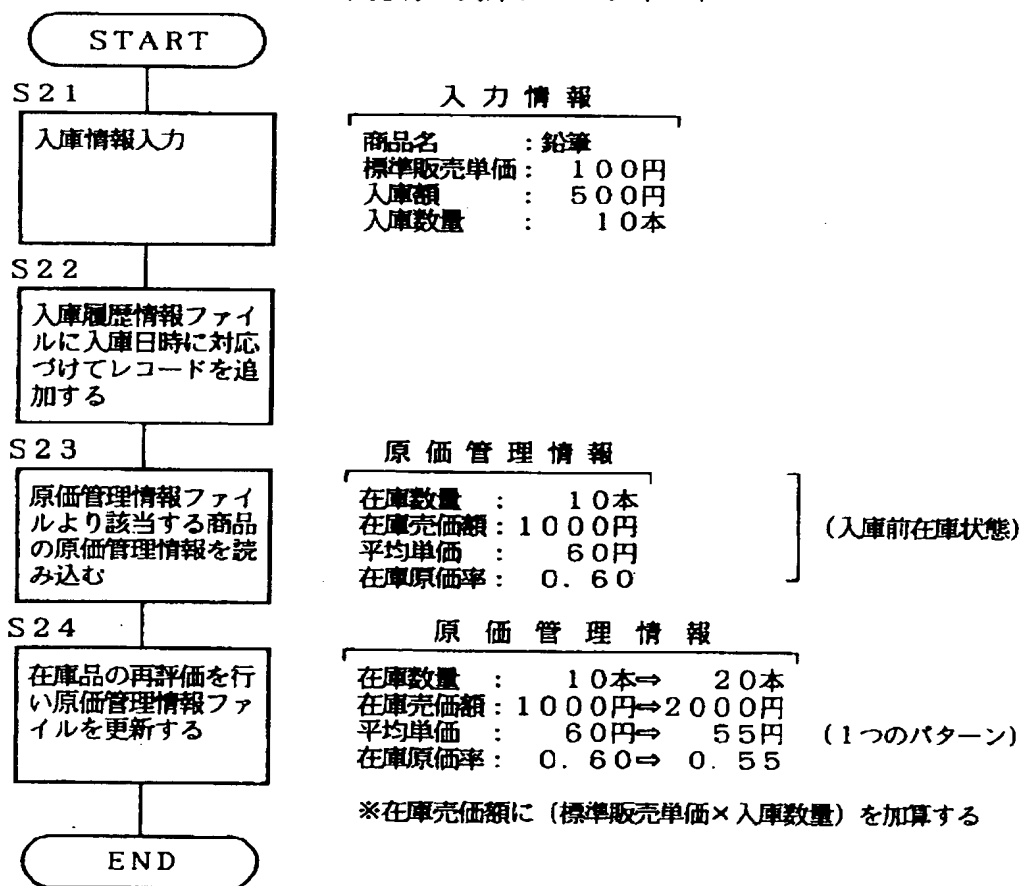
8：出庫情報更新部

9：棚卸資産額算出部

10：出力処理部

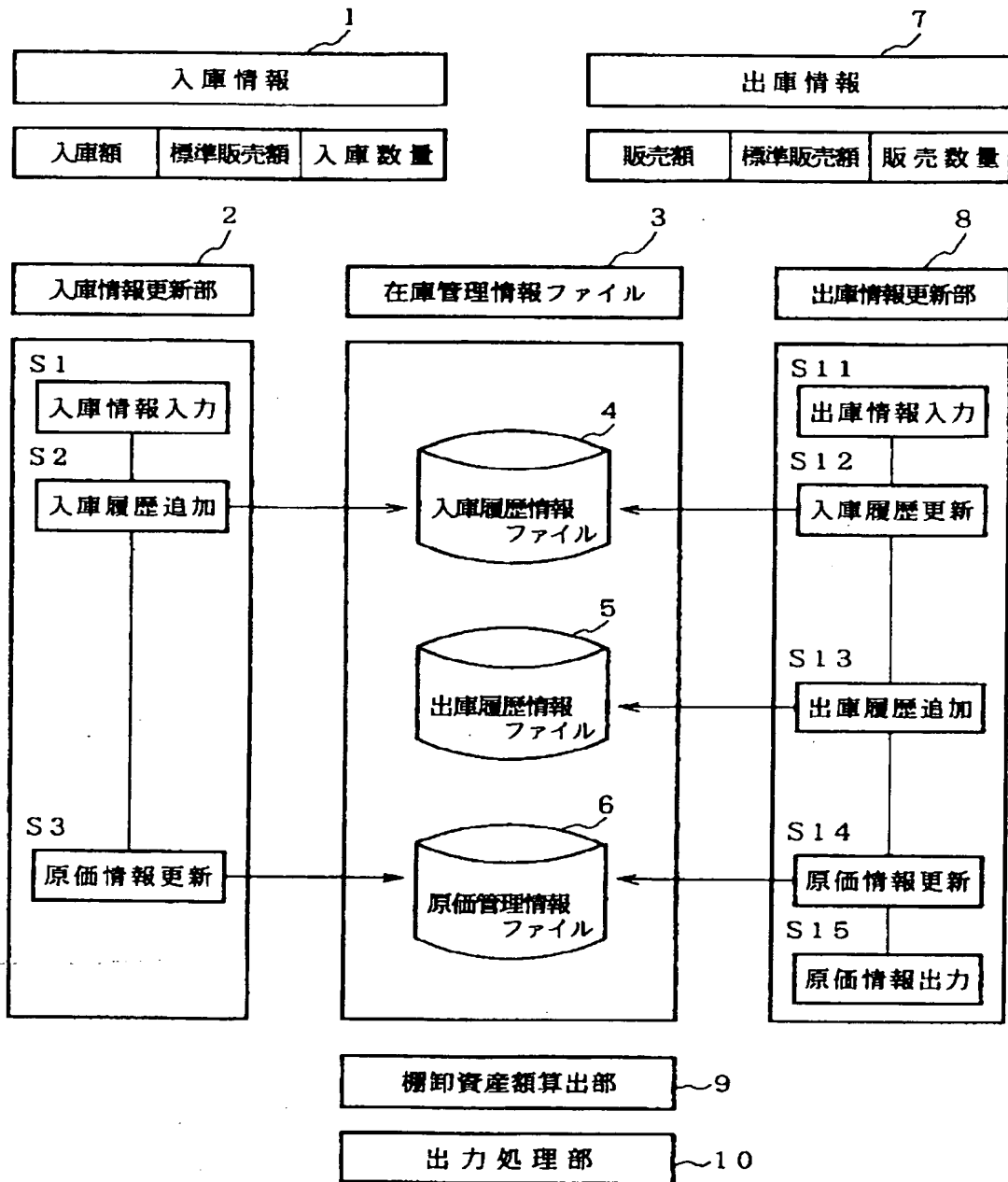
【図 2】

本発明の入庫フローチャート



【図 1】

本発明の原理ブロック図



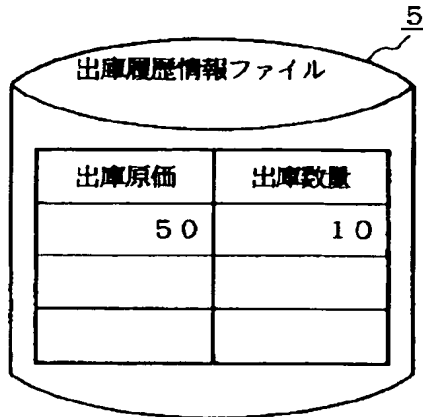
【図 3】

本発明の入庫履歴情報ファイル例

入庫履歴情報ファイル			
入庫日時	入庫数量	入庫単価	引当数量
06/01/01 17:20	10	50	0⇒10

【図4】

本発明の出庫履歴情報ファイル例



【図12】

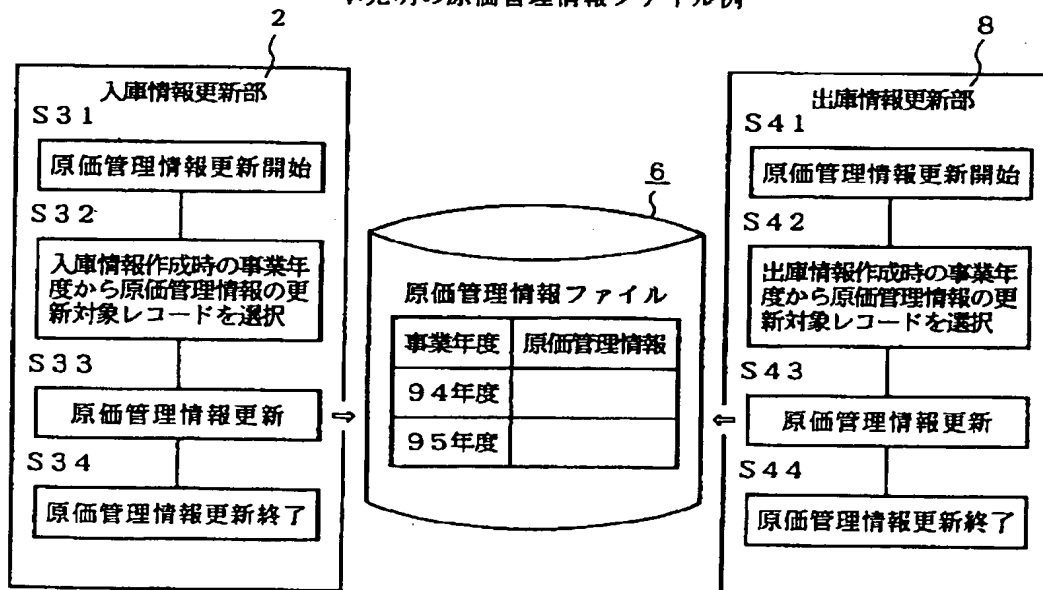
本発明の棚卸資産額の比較リスト例

画面

商品名	評価方法	棚卸資産額	
鉛 筆	最終仕入原価法	棚卸資産額1	⇒ 1番安い
	単純平均法	棚卸資産額2	⇒ 2番目に安い
	総平均法	棚卸資産額3	⇒ 3番目に安い
	移動平均法	棚卸資産額4	⇒ 4番目に安い
	売価還元法	棚卸資産額5	⇒ 5番目に安い

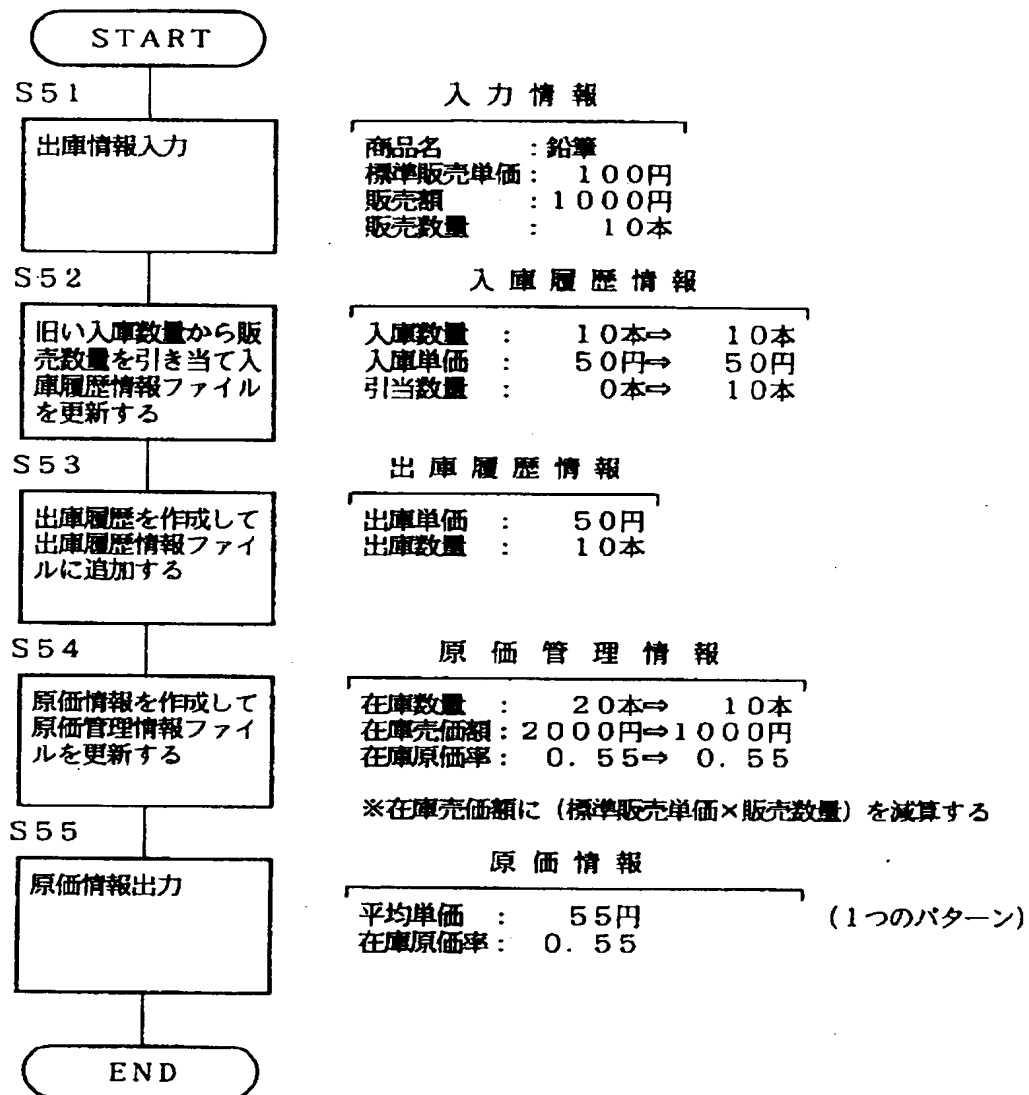
【図5】

本発明の原価管理情報ファイル例



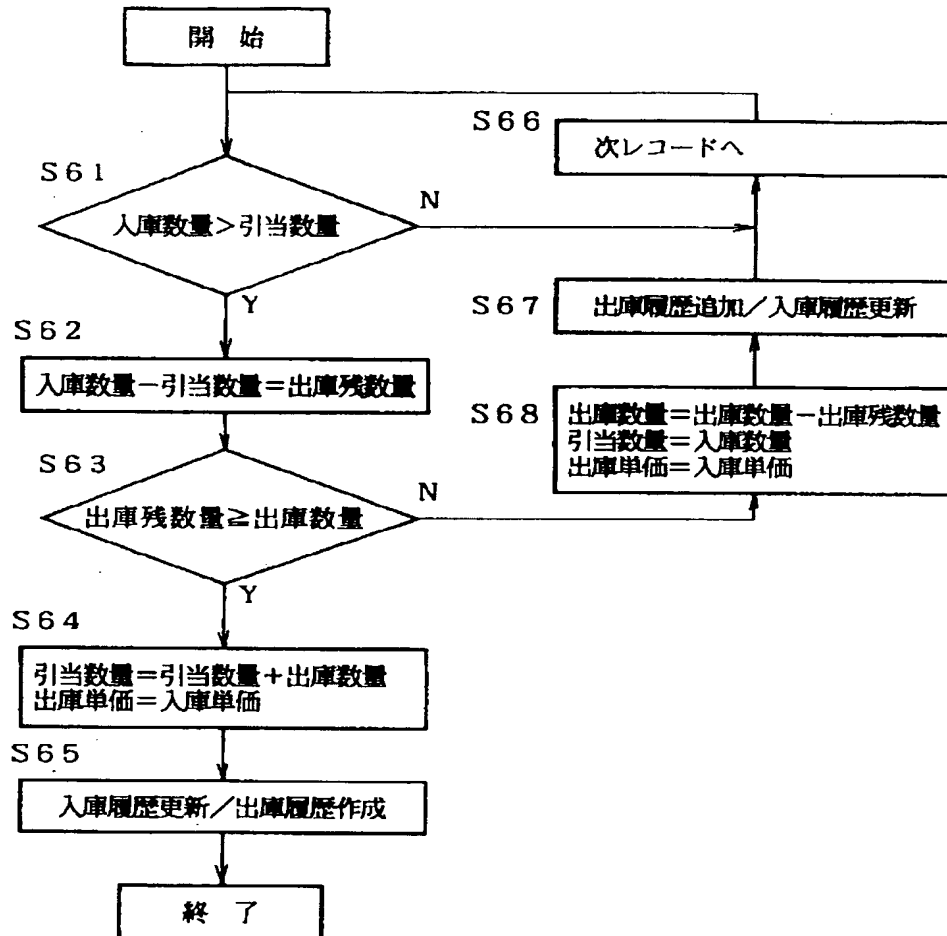
【図6】

本発明の出庫フローチャート（その1）



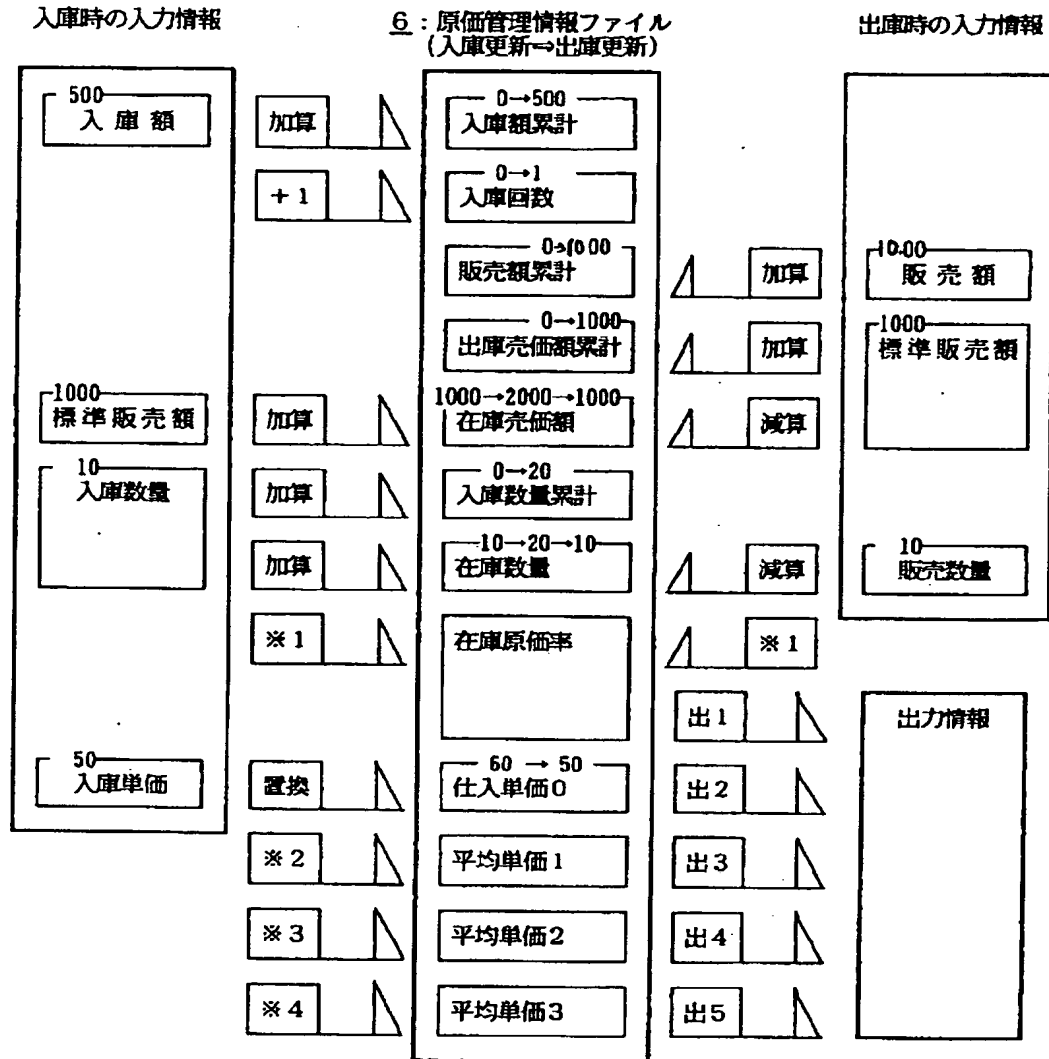
【図7】

本発明の出庫フローチャート（その2）



【図8】

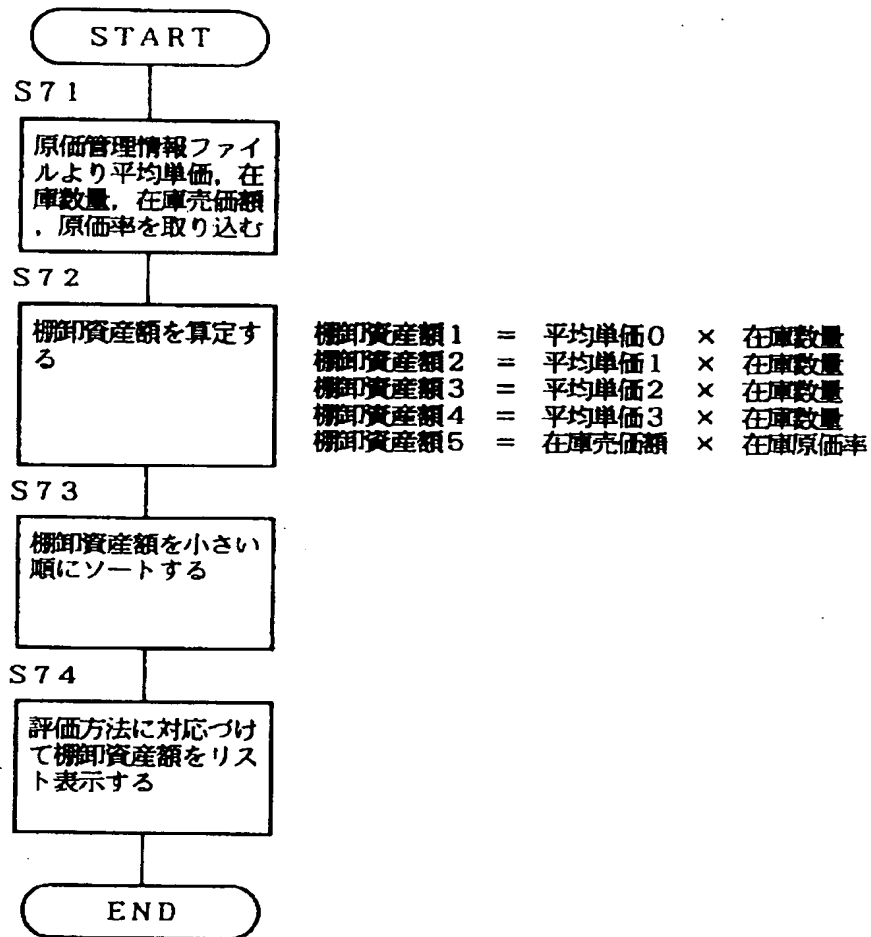
本発明の原価管理情報の更新説明図



※当年度初入出庫の例

【図 9】

本発明の棚卸資産額算出フローチャート



【図10】

本発明の平均単価／在庫原価率の算出例

(a)

$$\text{第1平均単価} = \frac{\text{在庫原価額（前年度）} \times \text{在庫原価率（前年度）} + \text{入庫額累計（当年度）}}{\text{在庫原価額（当年度）} + \text{販売額累計（当年度）}}$$

$$\text{在庫原価率} = \frac{1000}{1000} \times 0.6 + 500 = 0.55$$

$$\text{在庫原価率} = \frac{1000}{0} \times 0.6 + 2000 = 0.55$$

(b)

$$\text{第2平均単価} = \frac{\text{平均単価2（更新前）} \times \text{入庫回数（更新前）} + \text{入庫単価}}{\text{入庫回数（更新後）}}$$

$$\text{平均単価1} = \frac{0}{1} \times 0 + 50 = 50$$

(c)

$$\text{第3平均単価} = \frac{\text{在庫数量（前年度）} \times \text{平均単価2（前年度）} + \text{入庫額累計（当年度）}}{\text{在庫数量（前年度）} + \text{入庫数量累計（当年度）}}$$

$$\text{平均単価2} = \frac{10}{10} \times 60 + 500 = 55$$

(d)

$$\text{第4平均単価} = \frac{\text{平均単価3（更新前）} \times \text{在庫数量（更新前）} + \text{入庫単価} \times \text{入庫数量}}{\text{在庫数量（更新前）} + \text{入庫数量}}$$

$$\text{平均単価3} = \frac{60}{10} \times 10 + 500 = 55$$

【図11】

本発明の原価情報の出力例

(a)	出1 在庫原価率 ・販売原価の算定	販売額に対する原価率として原価算定 販売原価 = 標準販売額 × 原価率
	・売価還元法による棚卸資産算定	棚卸資産額 = 在庫売価額 × 在庫原価率
(b)	出2 平均単価0 ・販売原価の算定	平均単価0を仕入単価として原価算定 販売原価 = 販売数量 × 平均単価0
	・最終仕入原価法による棚卸資産算定	棚卸資産額 = 在庫数量 × 平均単価0
(c)	出3 平均単価1 ・販売原価の算定	平均単価1を仕入単価として原価算定 販売原価 = 販売数量 × 平均単価1
	・単純平均法による棚卸資産算定	棚卸資産額 = 在庫数量 × 平均単価1
(d)	出3 平均単価2 ・販売原価の算定	平均単価2を仕入単価として原価算定 販売原価 = 販売数量 × 平均単価2
	・総平均法による棚卸資産算定	棚卸資産額 = 在庫数量 × 平均単価2
(e)	出3 平均単価3 ・販売原価の算定	平均単価3を仕入単価として原価算定 販売原価 = 販売数量 × 平均単価3
	・移動平均法による棚卸資産算定	棚卸資産額 = 在庫数量 × 平均単価3

フロントページの続き

(72)発明者 望月 誠
石川県河北郡宇ノ気町宇野気ヌ98番地の
2 株式会社ピーエフユー内

(72)発明者 沼田 司
石川県河北郡宇ノ気町宇野気ヌ98番地の
2 株式会社ピーエフユー内

(72)発明者 遠藤 幸子
石川県河北郡宇ノ気町宇野気ヌ98番地の
2 株式会社ピーエフユー内

(72)発明者 宮本 淳一
石川県河北郡宇ノ気町宇野気ヌ98番地の
2 株式会社ピーエフユー内